



宝清寺



境内には、毎年沢山の花が咲きます。六十一号より裏面に宝清寺の草花を紹介しています。

明けましておめでとう 今年もよろしくお願ひ致します。

昨年は、政治は混乱し、経済は冷え込み、事件が多発し、物があふれ、精神は荒廃する等、どのように生きていたらよいのか、とまどいながら生活された方も多かったと思います。そうした状況を継承しながら新しい年が始まるのだと思われれます。芥川龍之介は「侏儒の言葉」の中で、「人生は狂人の主催に成ったければならぬ。こう云うゲエムの莫迦々々さに憤慨を禁じ得ないものはさつさと埒外に歩み去るが好い。自殺も亦確かに一方便である。しかし人生の競技場に踏み止まりたいと思うものは刺癢を恐れず闘わなければならぬ。」と述べています。自殺者が交通事故者一万人を越え、三万五千人あるそうで、このことも大きな社会問題になっています。この厳しい年を「和而不同」（協調すれども同化せず）の心で乗り切りたいと思っています。

日蓮聖人 遺訓 (十六)

「まがれる木は素直なる繩をにくみ偽れる者は正しきまつりごとを心にあわず思う」（新池殿御消息）
心が曲がっている者は、正直者を邪魔にする。それは、自分が間違っている事がはつきりしてしまうからである。

八幡大菩薩の反響

前号「たちはな新聞」第六十五号に、「八幡大菩薩の縁起と、昨今の社会の混乱を見た時、これからの人生は日々「戦い」の側面があると感じ、住職として当山勤請の軍神である「八幡大菩薩の社」を整備し、皆様の守護を祈願したいと思っております。」と掲載したところ「私にもお手伝いさせて下さい。」との申し出が多数あり、思いがけない反響に住職として驚き、皆さまの厚情に感謝の気持ちで一杯になりました。中でも、日々健康で生活出来ているのはご先祖のご守護のお陰

住職ひと口法話 (第十六)

昨年は親族や近親者による紛争の結果、殺人事件にまで発展した事件の報道が目についた。昔は我慢してきた事を我慢しなくなったり、我慢出来なくなってきた事が原因の一つとして考えられる。人はなぜ我慢することを忘れたのだろうか。
最近はそのあふれ、生活が便利になり、欲しいものは何でも手に入る。人々は生活が便利になり我慢を忘れたのではないだろうか。生活が便利になればなるほど、我慢出来ない人が増えるという状況が生まれたのではないかと思います。
我慢という言葉は仏教用語で、「自分の才能や力を頼りにして、他人を馬鹿にして威張る。また、自分の考え方を頑固に押し通そうとする」という意味ですが、日本語特有の意味としては、「忍耐」と同義語で「辛抱し堪える」として使われています。人々は個人が認められた民主主義の社会と飽食の時代に翻弄され、自分の思いを達げるためには手段を選ばない精神的状況に至り、「自分の才能や力を頼りにして、他人を馬鹿にして威張ったり、自分の考え方を頑固に押し通そうとする人」が増えたのではないかと考えられます。仏教では、「我慢の人」を「増上慢」として戒めています。現在、日本語特有の意味として使用されている「辛抱して耐える」我慢は、「他を生かして自分を抑える」感情だと思えます。我慢強いと言われる人は、よほど強い意志と信念を持っているのではないかと思います。

新しい年、(脚下照顧)、自分自身の感性に自信を持って生きたいものです。

永代供養墓完成

今年に入って永代供養の相談が数件ありました。実際、二件の永代供養を受け、埋葬いたしました。
永代供養の相談の主なものは、「夫婦二人きりなのでお墓を作っても継承して守ってくれる人がいない。」「娘がいるが、嫁ぎ先にはお墓があるので、娘夫婦に両家の墓守をさせるのは負担が大きい。」「息子がいるが結婚して自分の家庭の生活に精一杯で親とは疎遠状態にあるので墓守はしてくれそうもない。」などでした。
当山には無縁の墓がありますが、永代供養水子供養の墓がありません。
これからの社会の状況を考えた時、当山にも、永代供養の相談に対応できる永代供養墓が必要と考え、従来あった無縁の墓所に「永代供養墓・水子供養墓・無縁墓」を建設ことに致しました。

場所は本堂南側の当山歴代の墓の西側で、規模はロッカー式で七十五畳が収容できるものです。完成は今年の春彼岸を予定しています。他霊園や寺院にある永代供養の墓というと骨壺を開け、合祀の形を取っているところが多いようです。当山で建設中の永代供養の墓は、鉄筋の建物の中にロッカーを備えた供養塔です。骨壺のままロッカーに一壺ずつ祀る形式で、故人の三十三回忌までの法要と春秋の彼岸・お盆の供養は当山で行います。お知り合いの方で永代供養のお考えのある方がありましたら管理事務所にご相談くださるようお願いいたします。
永代供養契約時に発生する永代供養料の他に供養料等の追加の負担はありません。

宝清寺年中行事

三月 彼岸中日・塔婆供養
 四月 八日・花祭り
 七月 十七日・盂蘭盆会供養
 七月 十七日・お施餓鬼法要
 十月 十二日・お会式法要
 九月 彼岸中日・塔婆供養

日蓮宗の聖日

二月 十五日・釈尊涅槃会
 二月 十六日・宗祖降誕会
 四月 八日・釈尊降誕会
 四月 二十八日・立教開宗会
 五月 十二日・伊豆法難会
 五月 十七日・身延御入山
 七月 八日・本尊始頭会
 八月 二十七日・松葉谷法難会
 九月 十二日・龍ノ口法難会
 九月 十八日・池上御入山
 十月 十三日・宗祖御会式
 十一月 十一日・小松原法難会

御祈願・御供養

交 通 安 祈 全
 商 繁 盛 祈 願
 虫 厄 位 祈 願
 方 除 産 祈 願
 星 運 産 祈 願
 安 守 守 祭 願 除 封 願 全

このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養・月命日供養等も行っております。詳しくは寺務所までご相談ください。

新年を迎えて

「元旦は冥土の道の「里塚」という諺がある。新年早々から冥土とは縁起でもないと言われるかもしれない。「一年の計は元旦にあり」という諺もある。どちらも、新年にあたって行く末を考えなさいということだろう。わが国の行く末はどうなるのだろうか。不安に感じるのは私だけではないと思う。

正月によく使用される諺をもう一つ紹介させていざだくと、「温故知新」というものがある。「古きをたずねて新しきを識る」という意味である。暦は六十年で一周し、元にもどるので還暦という。還暦のかたは、赤いチヤンヤンを着せられる。「赤ちゃん」のように新しく生まれ変わったという意味があるようだ。ちなみに六十年前の日本はどのような年だったか調べてみると、戦後の混乱のなかドッジという人が、日本経済再建のための具体的な方法を提案し、戦後の復興の息吹が見え始めた年である。また、三鷹事件や松川事件など電車に関する事件が起こっている。暗いニュースばかりでなく、シベリアからの引き上げ再開や湯川秀樹博士がノーベル物理学賞を受賞している。一〇〇年前を見てみると、大日本帝国憲法が公布され、東海道線が全線開通した年であった。二つの歴史だけを見たが、本年は日本丸が新たな船出を予感する年しのようにである。

健康の秘訣

世の中は景気の冷え込みが激しく、ふところが風邪をひいて忘年会や、新年会なども縮小傾向であるようだが、もっと切実な問題として、新型インフルエンザの大流行の兆しがあることを厚生労働省や保健所などが注意を促している。

インフルエンザの予防接種を受けているかたもいらつしやるようだが、この予防接種が

新型のインフルエンザに、効力があるかは不明だそうである。もちろん、過去に流行したインフルエンザには有効であるので、予防接種をうけたほうがよい。

また、いろいろな憶測がとびかい、世間を混乱に落とすことは本意ではないが、十二月八日の産経新聞には、東京でこの新型のインフルエンザが流行すれば、最大で六四万人が死亡すると推計している。万が一でも、このような事件が発生してしまふことを考えて、基本的な防衛策をこうじていただきたい。

まず、自分の顔かたちにあつたマスクを多めに用意していただきたい。つぎに、外から帰宅したら、手洗い、うがいをすることは基本であるが、乾燥したこの時期はウイルスが浮遊するので、できれば加湿器を使用し、室内の湿度を五〇から六〇パーセントに保つてもよい。

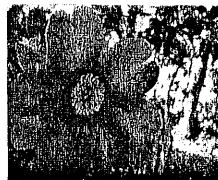
ここからが、普段と違うところであるが、もし新型インフルエンザが発生したとの知らせがでたら、極力、外出をひかえ、できれば飲料水や、非常食などの備蓄をおすすめする。しかし、インフルエンザの流行は、十一月ごろから三月頃までと期間が長いので、備蓄には限度があるが、二次的な被害を考えると少なくとも二週間程度は用意しておいたほうがよいであろう。

この二次的な被害とは、空港や港湾が封鎖され、交通機関や物流が麻痺する可能性があるからである。

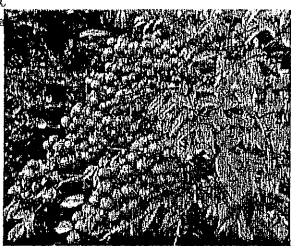
また、病院が近所になく移動が困難な場合は、タクシース会社の電話番号を控えておくのも一つの方法である。

宝清寺の草花

宝清寺の橘墓苑には一年を通して多くの花が咲いています。冬の時期に見られる草花は少ないようですが、その中でもひととき鮮やかに咲いているのが、山茶花と南天の実です。



山茶花は童謡にもなっている有名な花ですが、一見すると椿と間違えてしまう花です。もともと山茶花も椿科の花ですので親戚と言ってもいいので、間違えてもあたりまえですが、よくよく見ると椿とは違った華やかさがあり、また、とても良い香りがします。



南天は、白い可憐な花をさかせ、冬の間には赤い実がたわわに成ります。この木は墓所によく植えられています。難を転ずる」という意味や、子孫を多く残すことから、家門繁栄の意味があるので、縁起の良い草木として墓所に植えられているのではないのでしょうか。



また、年末から年始にかけては橘（たちばな）の実が付き、黄色くなります。橘の木は、ひな壇でも飾られています。宝清寺では特に寺紋に使用され、とても大切な木です。橘の木は育てるのが大変でもあり、最近ではあまり見かけなくなり珍しい木です。ご来寺の折りはぜひ観賞して頂きたいと思っております。